



リシンク この街から、Rethinkして未来を変えていく。



街の課題を、考える。話し合う。

そこに住む方々、そこで働く方々、そしてそれを支える自治体の方々と一緒に。

それは、よりよい明日のために。

Rethinkフォーラムは、地域にゆかりのある方や、テーマにピッタリなゲストをお招きして、地域社会の課題解決に向けたディスカッションをする場。

ちょっとだけ視点を変えてみることで、違った景色が見えてくるかもしれません。

この先も、この街が魅力的で活気にあふれるように。一緒に、Rethinkしませんか？

リシンク Rethink

視点を変えて考えること。



Rethink
PROJECT

テーマ

Rethink 鹿児島

～防災・減災を通じて暮らしやすい社会づくりへ～

「Rethink鹿児島～防災・減災を通じて暮らしやすい社会づくりへ」が7月18日、開催されました。鹿児島県内に大きな災害の爪痕を残した 1993年の「8・6水害」から 32年が経過。多大な犠牲の代償として得た教訓は、安心安全なまちづくりにどう生かされているのでしょうか。鹿児島県知事の塩田康一さん、鹿児島大学地域防災教育研究センター長の酒匂一成さん、日本たばこ産業(JT) 鹿児島支社長の吉窪伸哉さんが、鹿児島の防災や災害に強いまちづくりについて語り合いました。モデレーターは南日本新聞社の平川順一郎編集局長。4人による座談会の様子をお伝えします。

(主催/南日本新聞社 協賛/Rethink PROJECT)



出席者



塩田 康一さん (鹿児島県知事)

1965年、鹿児島市生まれ。東京大学法学部卒業後、1988年に通商産業省(当時)入省。熊本国税局人吉税務署長、経済産業省大臣官房審議官、九州経済産業局長などを歴任し、2020年7月から現職。現在2期目。



酒匂 一成さん (鹿児島大学地域防災教育研究センター長)

1977年、鹿児島市生まれ。2024年から現職。専門は地盤工学。総合大学の強みを生かした学際的防災研究の成果を基礎として南九州・南西諸島の防災・減災を図るため、地域と連携して課題解決に取り組む。



吉窪 伸哉さん (JT鹿児島支社長)

1974年鹿児島市生まれ。鹿児島経済大学(現・鹿児島国際大学)卒。96年JT入社、南九州支社営業企画部次長、本社ロジスティクス部次長などを経て2024年10月より現職。



平川 順一郎さん (南日本新聞社編集局長)

1966年生まれ。鹿児島市出身。90年南日本新聞社入社。奄美総局長、編集委員、報道本部長などを経て2023年4月から現職。社会部新人記者時代の1993年、「8.6水害」に遭遇し、取材にあたった。

テーマ01 大規模化する 豪雨災害への対策

「平川」32年前の8・6水害は、鹿児島にとって非常に大きな転機でした。この年は7月7日、8月1日、そして8月6日と、立て続けに災害が発生し、最終的に118人が亡くなり、いまだに行方不明の人もいます。県は8・6水害の経験をどう生かしてきたのでしょうか。

「塩田」8・6水害は鹿児島県の防災対策を大きく前進させる契機でした。ハード面では河川改修、橋の架け替え、砂防施設の整備を進め、ソフト面では河川砂防情報システムの整備、洪水浸水想定区域の指定や土砂災害リスク情報の提供などを行ってきました。結果として、令和に入ってから8・6水害を超える雨量が観測された事例もありましたが、河川の氾濫(はんらん)による住宅浸水被害などは軽減されています。

「酒匂」8・6水害の時は高校1年生で、強い雨の中を帰宅した記憶があります。あの経験が土木・防災研究の道へ進むきっかけになりました。近年、1時間雨量が50ミリを超えるような短時間強雨の回数が増えています。ただ、鹿児島ではこれまでの経験を踏まえたハード対策が着実に進められてきたため、8・6水害と同程度の雨でも被害が限定的にとどまるケースが増えました。情報伝達の仕組みや報道関係者の努力もあって、ソフト面でも格段に強化されていると感じています。しかしながら、8・6水害を超えるような雨も発生しつつあり、引き続きハード・ソフト両面から、防災力向上に向けた取り組みが重要だと思います。

「吉窪」「災害分野」は Rethink PROJECTの重点領域の一つであり、またJTグループとしても「災害への備え」「緊急支援」「復興支援」を柱に取り組んでいます。「災害への備え」としては、国際協力NGOピースウィンズ・ジャパンと、救助犬を含む災害捜索救助隊の育成支援および災害発生時の被災地支援活動に関するパートナーシップ協定の締結など、広く行っています。「緊急支援」としては、国内外での災害発生時にグループ各社で連携し、緊急支援金や義援金の寄付のほか、グループ会社のテールマークがバックごはん寄贈などの緊急支援物資など

テーマ02 鹿児島の「防災・減災」について

「平川」鹿児島は水害以外にも、火山や南海トラフ地震対策などもあります。知事、現状の課題と取り組みを教えてください。

「塩田」鹿児島県は、全国111ある活火山のうちの11を抱えており、桜島や新燃岳、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島、中之島などで警戒・避難体制を継続的に整備しています。桜島については今年3月、火山防災協議会において大規模噴火を想定した避難計画を策定したほか、毎年鹿児島市と共催で桜島火山爆発総合防災訓練を行っています。また、防災対策の更なる充実・強化を図るため、能登半島地震の知見も反映し、通信途絶への備えとして衛星通信の活用や、孤立集落へのドローンによる物資輸送など、新たな手段の活用も進めています。

「吉窪」鹿児島支社としては、災害発生時の社員の安全確認のために民間警備会社の安全確認サービスを導入し、年次訓練を実施しています。最近ではトカラ列島地震の際にシステムが作動し、迅速な確認につながりました。鹿児島支社で働く半数が県外出身者であり、8・6水害を知らない若

手も増えています。桜島の活動や噴火シナリオを、日常的にイメージできない社員もいますので、県が作成した桜島噴火シナリオの動画などを活用しながら、平時から勉強会を重ねています。事業継続計画(B CCP)の観点からも、



「酒匂」本日の議論を通じて、正しい知識を正しく伝えることの重要性を改めて感じました。行政・大学・報道・企業といった立場の違いを超え、それぞれが「力」を揃え、連携することが地域の力になります。JTとしても、Rethink PROJECTを通じて、地域課題の解決に継続的に取り組みます。

テーマ03 より暮らしやすい 鹿児島のための Rethink

「平川」防災の過去・現在・未来を踏まえて、暮らしやすい街への道筋を議論してきました。最後に、今後の鹿児島に向けたメッセージをお願いします。

「酒匂」鹿児島は、自然の厳しさと豊かさが同居する土地です。火山灰が降っても、豪雨が来ても、そこに暮らすことを選んできたからこそ、私たちは正しく恐れ、正しく備える必要があります。研究の成果を分かりやすく届け、地域の防災力を底上げしていくことに、今後も尽力します。

「塩田」より暮らしやすい鹿児島を実現するために、防災・減災はまちづくりの基盤です。国の防災・減災、国土強靱(きょうじん)化のための予算も活用し、ハード・ソフト両面の対策を一層進めます。同時に、県民一人一人が自助の意識を高め、共助・公助と連携していくことが何より重要です。自然と共生し、安心安全で豊かな鹿児島をともに築きたいと思っています。

「吉窪」本日の議論を通じて、正しい知識を正しく伝えることの重要性を改めて感じました。行政・大学・報道・企業といった立場の違いを超え、それぞれが「力」を揃え、連携することが地域の力になります。JTとしても、Rethink PROJECTを通じて、地域課題の解決に継続的に取り組みます。